

## 第4章 本質的価値

### 第1節 本質的価値

旧和中散本舗は、昭和24年（1949）に史跡「旧和中散本舗」として指定され、大角氏庭園は、平成13年（2001）に名勝「大角氏庭園」として指定を受けている。指定地内には重要文化財を含んでおり、史跡と名勝、及び重要文化財それぞれの価値を踏まえ、以下に本質的価値を整理する。

#### 【街道の偉観】街道の賑わいを伝え梅木立場の繁栄を象徴する屋敷構え

東海道草津宿と石部宿の間に位置する梅木立場にあり、街道土産となった和中散の製造販売によって発展した。街道に面した間口の広い堂々とした店舗に加え、書院は小休本陣として多くの大名らが立ち寄った記録が残る。街道を挟んで向かいには騎乗したまま入事ができる軒高の馬繋ぎや隠居所を有し、街道を軸とした一連の屋敷構えが現在も大きな変貌がなく良好に残されており、その様子は東海道名所図会と同様な状況を示し、往時の様相を今に伝えている。

#### 【製薬と商い】全国展開をみせた名薬和中散の製造販売の状況を示す遺産

散薬の和中散は、徳川家康ゆかりの道中薬として街道を往来する人々の人気を博し、梅木立場の名物として全国に広まった。名所図会さながらの店構えのみならず、店舗内には大型の木製歯車で石臼を動かす製薬機や店頭で薬湯を振舞った湯沸釜、屋号の木製看板など製造販売を行った道具が残され、図会に描かれた建物の利用実態を想起できる状態を保っている。また、街道を挟んで薬師堂が建つなど、製薬業を主体に賑わいを見せた往時の生業の姿を良好に残している。

#### 【庭園と接遇】建造物と一体となった座敷を飾る装置としての接遇の庭園

庭園は建物の成立と同時期である近世中期には築造されていたと考えられ、行幸・御成りなどの利用とともに手が加えられてきた。主庭は上段の間の南側濡れ縁に面し、小さな園池越しに急勾配の起伏にとんだ築山を築き、鞍部には小ぶりの石材を用いた枯滝石組が据えられている。築山の要所には景石と小ぶりのクロマツを配し、滝添えにアカマツを景木とし、背後の日向山と築山が呼応した景観となっている。一方、小座敷からは上段の間の景観とは異なり、正対して象徴的なクロマツが枝を伸ばし、縁先手水鉢と石燈籠が添景となった平庭となっている。上段の間奥に続く離家は、廊と濡れ縁で繋がり、移動しつつ庭園の景色の変化も楽しむ事ができる。座観を主とし、三つの視点場から表情の異なる庭園が展開する、建造物と一体となった座敷を飾る庭園である。

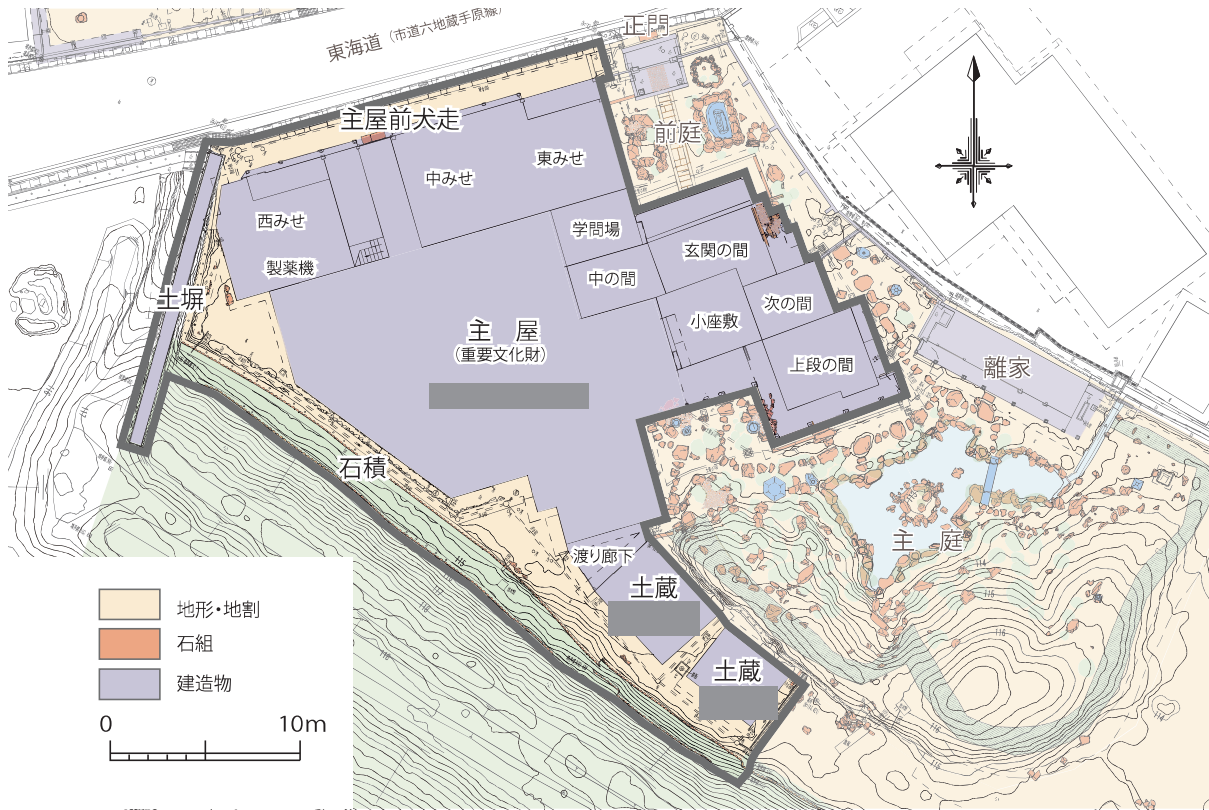
#### 【建築と造作】商家住宅としての重厚さと本陣として客人を迎える造作

大角家住宅は、近世中期に遡る街道沿いの大型の商家住宅として縦形彫刻の肘木を持つ小庇と濡れ縁が続く店構えが重厚な雰囲気を持ち、摺上げ戸などの建具は、店舗としての利用に基づく工夫がなされている。主屋の建立にほどなくして成立した書院は格式の高い正門と式台玄関、上段の間を備え、本陣に匹敵する屋敷構えとなっている。大名ら客人や明治天皇を迎えた襖絵や屏風、大型透彫欄間などの優れた造作が盛時の様子を物語る。その変遷は「古来作事并諸覚帳」に克明に記録され、格式を保ちながら受け継がれてきた商家住宅の歴史を今に伝えている。

## 第2節 構成要素

第4章第1節で提示した本質的価値を踏まえ、旧和中散本舗・大角氏庭園の本質的価値を構成する要素を抽出した。本質的価値を構成する要素は第3章第3節で区分した地区ごとにまとめ、さらに地割、石組、水系、植栽、構造物、建造物に細分類した。

### 第1項 主屋地区



[図 4-1] 主屋地区の構成要素位置 (1 : 400)

[表 4-1] 主屋地区の構成要素の概要

分類	構成要素	概要
地形・地割	主屋前犬走	・ 主屋の犬走りは東海道との接続部であり、店舗の縁先として活用された。
石組	石積	・ 旧葉山川堤防の裾に2段構えの石積がある。 ・ 所々欠損がみられた状態であったが、昭和45年(1970)の主屋修理の際に、野面石を補足し積み直した。
建造物	主屋 (重要文化財)	・ 重要文化財に指定されており、店舗部分は貞享から元禄初年の普請、その後間もなく本陣部分が増築されたと推定されている。 ・ 桁行10間、梁間8間、切妻造、両妻に卯建をあげ本瓦葺、表側下段は棧瓦葺きとなっている。 ・ 表構えは街道に面した店舗部分があり、南奥に居間及び台所、東には式台玄関、小座敷、次の間、上段の間の4部屋からなる本陣部分がある。 ・ 店舗には木製歯車式の製薬機があり、附指定されている。 ・ 本陣部分には襖絵等の美術品が残され、上段の間と小座敷は南に広がる庭園に面している。 ・ 昭和43～45年(1968～1970)に半解体修理が行われた。
	土塀	・ 石積の基礎の上に土塀を積み上げており、塀の上には瓦が葺かれている。主屋西側北隅から旧葉山川堤防へ南西に向かい、延長は16.6mである。 ・ 現存の土塀は昭和45年(1970)に主屋半解体修理の付帯工事として積み直されたものである。旧土塀は北から約3m残した状態で崩れ、石垣のみが残っていた。
	土蔵 (文庫蔵)	・ 主屋南側に建つ土蔵で、渡り廊下で主屋と繋がっている。 ・ 宝暦元年(1751)主屋との間に渡り廊下が建てられる。※『古来作事并諸覚帳』
	土蔵 (米蔵)	・ 寛延2年(1749)普請、文庫蔵の南に位置する独立した土蔵。 ・ 昭和63年(1988)屋根葺替及び木工事部分修理を行った。 ・ 桁行4間、梁行3間、2階建、切妻造、棧瓦葺、平面積1階11.66㎡、2階11.66㎡延べ23.32㎡、軒面積20.13㎡、屋根面積22.80㎡



〔写真 4-1〕 主屋前犬走



〔写真 4-2〕 主屋前犬走



〔写真 4-3〕 石積



〔写真 4-4〕 主屋  
(街道より)



〔写真 4-5〕 主屋  
(店舗)



〔写真 4-6〕 主屋  
(式台玄関)



〔写真 4-7〕 主屋  
(襖絵・屏風)



〔写真 4-8〕 主屋  
(上段の間)



〔写真 4-9〕 主屋  
(庭園より)



〔写真 4-10〕 土塀  
(街道より)



〔写真 4-11〕 土塀  
(敷地内より)



〔写真 4-12〕 土蔵 (文庫蔵)  
(外観)



〔写真 4-13〕 土蔵 (文庫蔵)  
(渡り廊下入口)



〔写真 4-14〕 土蔵 (米蔵)  
(外観)



〔写真 4-15〕 土蔵 (米蔵)  
(内観)

第2項 前庭地区



[図 4-2] 前庭地区の構成要素位置 (1 : 150)

[表 4-2] 前庭地区の構成要素の概要

分類	構成要素	概要
地形・地割	石畳	・ 正門から式台玄関まで花崗岩の切石が並び、両脇にカズラ石で縁がとられている。
石組	石組 (西・東)	・ 石畳の西側には石組がされ、一部白石 (こぶし大) が敷かれている。 ・ 東側には北東角に白石だけを使用した石組がある。
植栽	前栽	・ 前庭を装飾する樹木が植えられている。
構造物	石碑	・ 石積の基壇の上に自然石の台石を置き、その上に高さ 2 m 幅約 1 m の立石で構成される。 ・ 明治天皇 英照皇太后 昭憲皇太后御駐蹕聖跡の石碑で昭和五年拾一月建之と彫られている。
	手水鉢	・ 花崗岩自然石に水鉢が丸く掘られ手前に縁石水受けの海と呼ばれる排水として、真黒石が敷かれる。 ・ 建物の増設により、一部が床下に隠れる。
建造物	正門 (重要文化財)	・ 重要文化財に指定されている。一間薬医門で、棧瓦葺、附属の両袖塀がある。
	築地塀 (東)	・ 東面の隣地境界塀として高さ 2 m の築地塀が建てられており、瓦屋根の上には鉄製の忍び返しが設置されている。



[写真 4-16] 石畳



[写真 4-17] 石組 (西)  
(前庭より)



[写真 4-18] 石組 (西)  
(主屋店舗より)



[写真 4-19] 石組 (東)



[写真 4-20] 前栽



[写真 4-21] 石碑



[写真 4-22] 石碑 (正面)



[写真 4-23] 手水鉢



[写真 4-24] 正門  
(街道より)



[写真 4-25] 正門  
(前庭より)



[写真 4-26] 正門附属袖塀  
(前庭より)



[写真 4-27] 築地塀 (東)  
(前庭より)



[写真 4-28] 築地塀 (東)  
(東境界隣地側より)

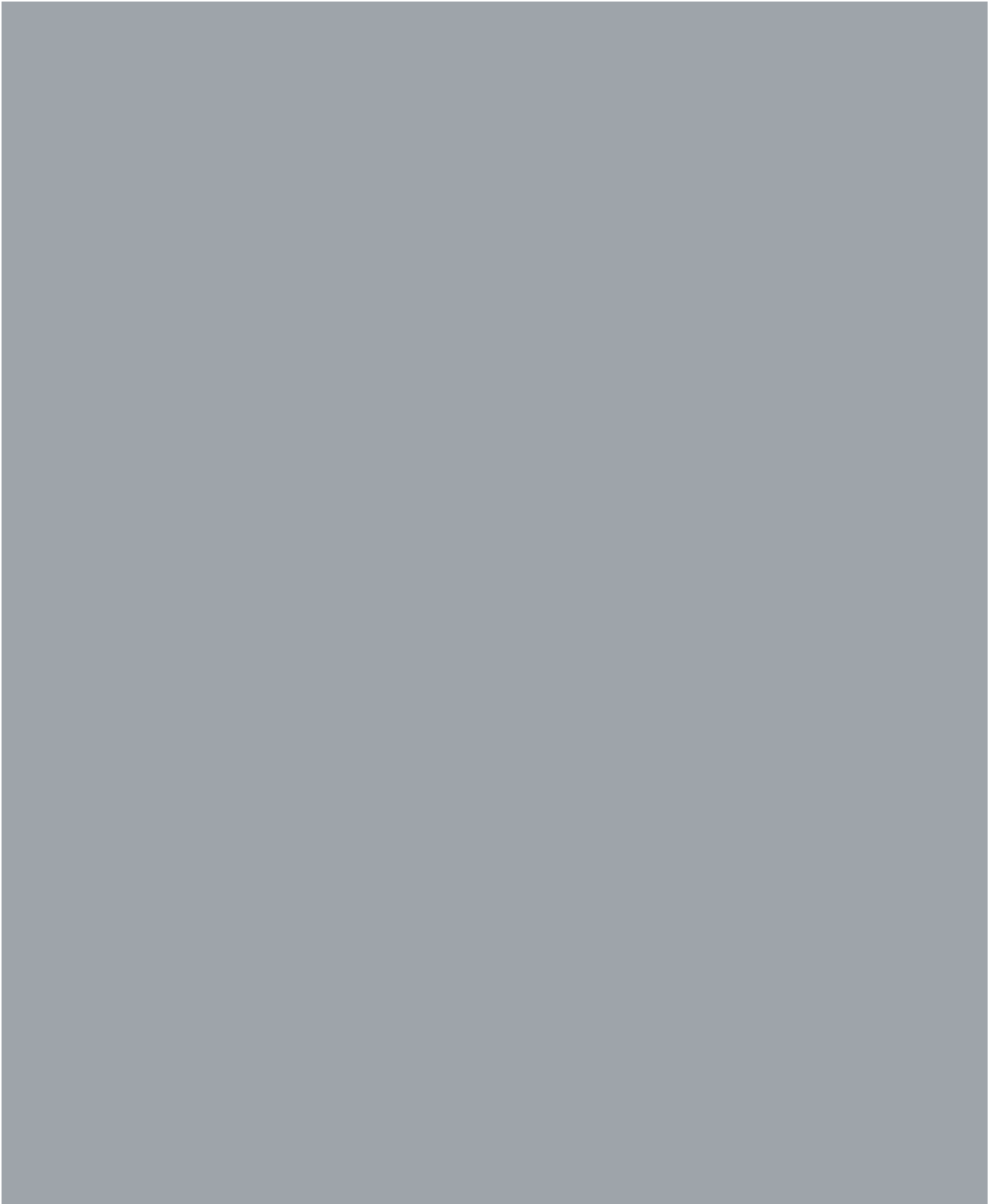


[写真 4-29] 中門  
(前庭より)



[写真 4-30] 中門  
(主庭より)

第3項 主庭地区



[図 4-3] 主庭地区の構成要素位置 (1 : 200)

[表 4-3] 主庭地区の構成要素の概要

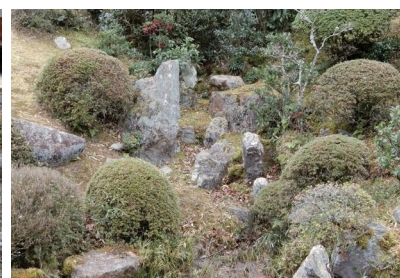
分類	構成要素	概要
地形・地割	築山	・ 上段の間から正面に見える景色として小高い築山が造られており、横に少し低い築山が連なっている。
	中島（亀島）	・ 反橋より西側の池泉中央に、石で組まれた中島（亀島）がある。明治初年に造られたとされる。
石組	池護岸	・ 池泉は自然石の石組で囲われ護岸となっている。
	滝石組	・ 築山の西側中腹の上段の間から良く見える位置に、滝石組が設けられている。江戸時代中期に水を引き込む工事をした記録が残るが、現在は水は流れておらず枯滝となっている。
	景石	・ 築山に大小の景石が据えられている。
	飛石	・ 書院の周りには建物に沿って飛石が配されている。
水系	白玉石敷	・ 築山の西裾に石組があり、Φ 50～150mm ほどの白い玉石を敷きつめている。
	池泉	・ 庭園の中心には池泉があり、西側が広く、東側は細くなっていて東よりの中腹に橋が架かる。
植栽	排水路	・ 池泉の南東に幅 250mm 深さ 300mm の排水路があり、排水堰を超えて溢れた水は排水路を通して隣家境界の水路へ排出されている。
	主景観木	・ 庭園の景色として植栽が植えられている（マツ、ウメ、ツバキなど）。池の回りには低く刈りこんだツツジやツゲがあり、ツバキ、ヒサカキ、カナメモチ、アオキ等の混垣の生垣が築山の回りを囲い景観を区切っている。
構造物	切石反橋	・ 池泉の東側に築山へ渡る切石の反橋（W450 × 2620 × t 95mm）が架かる。
	三重宝篋印塔	・ 築山東の中腹に点景物として高さ 1.4 m の宝篋印塔が置かれている。
	大振り鉢型手水鉢	・ 上段の間の縁先に丸く滑らかに加工された大振りの手水鉢があり、周囲には石組が施され中心に排水の真黒石が敷かれている。鉢サイズΦ 700 × H430 mm
	細型棗手水鉢	・ 小座敷前の縁先の西側にΦ 450 × H750mm の細く背の高い棗型の手水鉢がある。周囲には石組が施され、排水の真黒石が敷かれる。
	手水鉢 1	・ 大振り鉢型手水鉢の奥に大型の雪見燈籠の横に自然石をくりぬいた手水鉢がある。サイズ 700 × 400 × H500 mm。
	手水鉢 2	・ 離家から前庭へ続く中門の脇に台石の上に置かれた自然石の手水鉢がある。サイズ 500 × H400mm。
	石燈籠 1	・ 細型棗手水鉢の傍らに細長い山型の笠を持つ石燈籠がある。サイズ W400 × H1450mm。
	石燈籠 2（雪見燈籠）	・ 池泉を臨む位置上段の間からの近景となる位置に W1150 × H1400 雪見燈籠がある。
	石燈籠 3（雪見燈籠）	・ 手水鉢 2 の傍らに、W600 × H800 の雪見燈籠がある。
	石燈籠 4	・ 薬力さんのお社の横に角柱の竿に四角い笠の載った石燈籠がある。サイズ W500 × H1500mm。
建造物	中門	・ 前庭と主庭の境に棟門がある。
	離家	・ 間口 9 m 奥行 3 m の別棟の離家で、上段の間前の縁から可動式の渡り廊下を伸ばし、縁をつたって行くことができる。 ・ 柱などに改修の痕が見られ、北西端には風呂があったとの記録も残る。
	築地塀（北）	・ 中門から離家までの東の境界に瓦屋根のある築地塀がある。
	裏木戸	・ 離家の南に隣地境界の水路部へ通じる木戸がある。



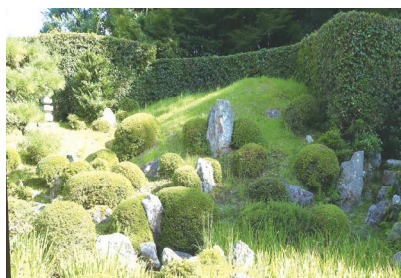
[写真 4-31] 築山・中島



[写真 4-32] 池護岸



[写真 4-33] 滝石組



[写真 4-34] 景石



[写真 4-35] 飛石



[写真 4-36] 白玉石敷



[写真 4-37] 池泉



[写真 4-38] 排水路



[写真 4-39] 主景觀木



[写真 4-40] 切石反橋



[写真 4-41] 三重宝篋印塔



[写真 4-42] 大振り鉢型手水鉢



[写真 4-43] 細型棗手水鉢・石燈籠 1



[写真 4-44] 手水鉢 1



[写真 4-45] 手水鉢 2



[写真 4-46] 石燈籠 2 (雪見燈籠)



[写真 4-47] 石燈籠 3 (雪見燈籠)



[写真 4-48] 石燈籠 4



[写真 4-49] 離家



[写真 4-50] 築地塀 (北)



[写真 4-51] 裏木戸

第4項 背景林地区



[図 4-4] 背景林地区の構成要素位置 (1:600)

[表 4-4] 背景林地区の構成要素の概要

分類	構成要素	概要
地形・地割	平場	<ul style="list-style-type: none"> <li>主庭築山の裏側にあたる区域で、作業空間として使われていた。</li> <li>現在は中央の大部分をヤダケが密生している。</li> <li>敷地南東部は葉山郵便局脇の路地からの接道部と繋がっており、臨時で駐車可能な空地となっている。空地から庭園へは密な植栽帯があり、侵入防止の役割を持つ。</li> </ul>
	旧葉山川堤防	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧葉山川の堤防があり緩衝地となっている。史跡範囲には含まれないが、名勝庭園の背景林として重要であるため、名勝範囲とされた。</li> <li>葉山川は六地藏村に沿うように流れる河川であったが、昭和30年代頃から廃川とされ、工事が進み現在は県道に整備されている。</li> </ul>
植栽	境界植栽	<ul style="list-style-type: none"> <li>堤防の頂部から敷地側の斜面は竹林となっており、合間に実生から育ったと思われる高木が点在する。密に繁っており、堤防からの侵入防止にもなっている。</li> <li>堤防外側の斜面は地被に芝が張られ整備されている。</li> </ul>



[写真 4-52] 平場



[写真 4-53] 旧葉山川堤防



[写真 4-54] 境界植栽

## 第5項 隠居所地区



[図 4-5] 隠居所地区の構成要素位置 (1:300)

[表 4-5] 隠居所地区の構成要素の概要

分類	構成要素	概要
地形・地割	平場	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬師堂のまわりは舗装されておらず平場となっている。かつてはイチョウの大木やマツがあった（古写真及び所有者聞き取り）が消失している。</li> <li>隠居所地区の地盤は道路とほぼ同じ高さであったが、数度の道路補修のため、現在の道路は約30cm程度高くなっており、道路取合をスロープ状に盛土し、敷地内を整備している。（『重要文化財大角家住宅隠居所修理工事報告書』、昭和47年（1972））</li> </ul>
	石組	<ul style="list-style-type: none"> <li>北側に隠居所地区敷地の地盤を構成する石積がある。</li> <li>嘉永5年（1852）に積み直しをした記録が残る。（『古来作事并諸覚帳』）</li> </ul>
石組	石組	<ul style="list-style-type: none"> <li>隠居所の玄関前に丸く囲うように石組がある。</li> </ul>
	景石	<ul style="list-style-type: none"> <li>隠居所東側の縁の前に景石が据えられている。</li> </ul>
構造物	井戸	<ul style="list-style-type: none"> <li>馬繋ぎの中央付近に井戸がある。この井戸から水を汲み、店の釜で沸かして薬湯にしていたと言われる。（所有者聞き取り）</li> </ul>
建造物	隠居所（重要文化財）	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要文化財に指定されており、修理時に発見された墨書から享保19年（1734）には、建物があったとされる。昭和45～47年（1970～1972）半解体修理が行われた。</li> </ul>
	薬師堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地の北東隅にあり、宝暦6年（1756）修復建立（瓦の刻銘、『古来作事并諸覚帳』）と記録が残る。</li> </ul>
	馬繋ぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>東海道沿いに東西に長く建てられている。西側2間は隠居所玄関へ続く門に改造されている。</li> <li>東海道が補修により嵩上げされたため、当初礎石の上に花崗岩が積み重ねられている。昭和47年の修理の際に、埋設状態にあった石面に風化があることから当初礎石と認められ、それによってたつき土間の当初地盤も明らかとなった。</li> </ul>
	独立便所	<ul style="list-style-type: none"> <li>天保4年（1833）建立された旅人のための便所で、敷地の北西隅にある。後に改変され位置が変わるが、昭和47年（1972）の隠居所修理の際に、古図を基に旧位置に復し、整備された。</li> </ul>
	築地塀（南西・中央）	<ul style="list-style-type: none"> <li>隠居所と薬師堂の間に南北約13m延びる築地塀がある。</li> <li>敷地南西隅の独立便所前に築地塀がある。</li> </ul>



〔写真 4-55〕 平場



〔写真 4-56〕 石組



〔写真 4-57〕 景石



〔写真 4-58〕 井戸



〔写真 4-59〕 隠居所 (玄関付近)



〔写真 4-60〕 隠居所 (外観)  
(街道より)



〔写真 4-61〕 薬師堂 (正面)



〔写真 4-62〕 薬師堂 (南東面)



〔写真 4-63〕 馬繋ぎ  
(西より)



〔写真 4-64〕 馬繋ぎ  
(東より)



〔写真 4-65〕 馬繋ぎ (隠居所門部分)  
(東より)



〔写真 4-66〕 独立便所



〔写真 4-67〕 築地塀 (南西)



〔写真 4-68〕 築地塀 (中央)  
(西より)



〔写真 4-69〕 築地塀 (中央)  
(東より)

## 第6項 地区区分外（指定地外）

[表 4-6] 地区区分外（指定地外）の本質的価値と密接に関係する要素の概要

要素	概要
東海道	<ul style="list-style-type: none"> <li>主屋地区と隠居所地区の間に東西に通る街道で、道幅は約4m前後である。</li> <li>かつての道路面は、現在より30cm程低い位置であった。</li> <li>指定地内には、店舗、馬繋ぎ、独立便所など東海道を行く旅人を中心に賑わった施設がある。</li> </ul>
三上山	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定地の北東約3.5km程に位置し、主庭築山から遠景として良く見える。標高は432mで、きれいな円錐形の形から近江富士と呼ばれ親しまれている。</li> </ul>
日向山	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定地の南東約800mに位置する標高229.9mの山で、主庭の景色の背景となる。</li> </ul>



[写真 4-70] 東海道



[写真 4-71] 三上山



[写真 4-72] 日向山